

第2分科会「子どもの発達に関する課題」

(報告者) 浜田市教頭会所属

【提言1】

児童生徒の豊かな人間性を養うために

－「感動する心,思いやりの心,自他を尊重する心」の育成を目指した地域学校協働活動を通して－

【提言者】 山形県上山市小中学校教頭会

○発表の概要

児童生徒の豊かな人間性を養うために必要な教頭としての役割や関わり方を、以下の4つのから研究する。

(1) 推進員の業務の明確化と連絡調整

各校1名ずつ推進員を配置する。推進員は元校長、元教員であり、学校運営協議会の事務も担当している。推進員は連絡調整、人材の確保、人材の発掘などを行っている。

(2) 教員と推進員がスムーズに連携する仕組み作り

教頭のアドバイスの元、推進員と担当教員が直接相談できるようにしている。

(3) 地域の方の想いを活かした活動づくり

学校としてのねらいや視点を明確に伝え、講師の理解を得ながら活動を実施することで、地域の方の強い想いと学校の想いとズレを解消していく。

(4) 地域の声を生かした学校運営計画づくり

推進員を通して学校に聞こえてきた地域の声を生かして、学校のグランドデザインをブラッシュアップしていく。

○質疑、協議

- ・推進員を誰が担うかが大切になってくる。推進員が変わった時にまた最初からやり直しにならないようにする必要がある。まちづくりセンターが推進員の役割を担っている例もある。
- ・学校の思いを出していただくだけではなく、学校の弱みを出していただくことも大切。
- ・地域と教員の想いのズレをなくしていくのが教頭の役割。教頭から担当教員への声かけが大切。

○指導助言

- ・推進員を元教員以外で担っていく場合、教頭の役割がより重要になってくる。
- ・教員が地域づくりの視点をもつことができるようになると地域からの信頼があつくなる。教員に地域づくりの視点をもたせることが教頭の役割。
- ・地域の発展を望む人は子どもにとってグッドモデルとなる。
- ・「推進員の役割の明確化」「推進員とのつなぎ」「地域の声の集約」「地域の声を生かした学校運営計画」が教頭の役割。
- ・グランドデザインの中に、「地域のねがい」の項目をいれるとよい。
- ・市のグランドデザインを元に話をすると、地域と学校の足並みがそろいやすい。

第2分科会「子供の発達に関する課題」

(報告者) 吉賀町教頭会所属

○発表の概要 (大会資料 P30～33 参照)

【提言 1】児童生徒の豊かな人間性を養うために

提言者：山形県上山市小中学校教頭会 上山市立南中学校 半藤 博士

〔研究のねらい〕

- (1) 推進員の業務の明確化と連絡調整 (2) 教員と推進員がスムーズに連携する仕組みづくり
- (3) 地域の方の想いを活かした活動づくり (4) 地域の声を生かした学校運営計画づくり

〔グループ協議及び全体での共有 (一部)〕

- ・地域学校協働活動を上手く進めていくためには、学校は弱みを見せる必要がある。
- ・管理職が地域の方とつながっているが、異動があったとき、活動などの業務を引き継ぐことはできても、地域の方との関係性までは同じようにいかないことに不安がある。

〔指導助言〕牛久市立神谷小学校 佐々木香織、茨城県鹿行教育事務所 錦織一宏

- ・一方通行ではなく学校と地域の相互連携があり、共に力を合わせて行っているモデル的な事例である。元校長など教員経験者が推進員になっていることで、推進員が学校と地域の潤滑油となりやすく連絡調整の質が上がっている。
- ・推進員が学校づくりの視点をもつように、教員も地域づくりの視点をもつことが大事である。
- ・地域の方との関わりが、教頭の働き甲斐の一つになればよいと思う。
- ・共通認識できずにずれが出てしまうときは、市の教育ビジョンをお互いが確認できるとよい。
- ・地域とともにつくっていく学校を目指していくためには、学校運営協議会の場で、グランドデザインを地域と一緒につくっていくのはどうか？

【提言 2】子供まんなか、一人一人が笑顔になるための支援の在り方

提言者：群馬県玉村町教頭会 玉村町立中央小学校 佐藤 則和

〔研究のねらい〕

子供たち一人一人への適切な支援のために玉村町の小学校で行われているチーム担任制での工夫と、そこに教頭がどのように関わっていくのか考える。

〔グループ協議及び全体での共有 (一部)〕

- ・低中高に分け、各学年ブロックを 3、4 名がローテーションで担任をしている中で、担任が定まっていないと不安になる子どもがいるのでは？また、保護者懇談は？(→1 年生は 1 学期間は担任を固定している。懇談は保護者が話したい・話しやすい教員を選ぶようにした。)
- ・多くの教職員で子どもを見るためには、情報共有が欠かせない。記録が大切になる。

〔指導助言〕牛久市立神谷小学校 佐々木香織、茨城県鹿行教育事務所 錦織一宏

- ・チーム担任制を始めるにあたって教職員の不安もあっただろうが、教職員とコミュニケーションを図り、課題や思いを聞き出しておいたことは効果的であった。また、保護者に対して事前に説明するだけでなく、始まってからも情報を収集してまとめたり状況を伝えたりすることは、教頭としての大切な役割である。
- ・外部人材の活用として、保護者や大学生に来てもらうなど町の強みを活かしている。
- ・チーム支援推進に関する教頭のマネジメントに必要な資質としては、「調整力 (つなぎ)」「対話力 (建設的な対話)」「俯瞰力 (全体を見渡して設計)」「支援力 (チームや個へ)」がある。

第2分科会「子供の発達に関する課題」

(報告者) 江津市教頭会所属

○課題別分科会の概要 (大会資料 P30～33 参照)

【提言1】児童生徒の豊かな人間性を養うために ―「感動する心、思いやりの心、自他を尊重する心」の育成を目指した地域学校協働活動を通して―

提言者：山形県上山市小中学校教頭会

〔研究のねらい〕 児童生徒の豊かな人間性を養うために必要な教頭としての役割や関わり方を4つの視点から研究する。(1) 推進員の業務の明確化と連絡調整 (2) 教員と推進員がスムーズに連携する仕組みづくり (3) 地域の方の想いを活かした活動づくり (4) 地域の声を生かした学校運営計画づくり

〔グループ協議及び全体での共有 (一部)〕

- ・様々な形で地域と連携している。連携内容は地域特有なものもあるが、畑づくり、ミシン学習のサポートなど同じような取組をしている様子がうかがえた。
- ・課題としては学校運営協議会の中心となる方の人選が多く为学校からあがった。教育委員会が見つける、各校が自ら見つける等様々であった。
- ・地域と連携することが子どもの成長に生かされているかアンケート等を活用して振り返り、改善を図りながら続けていくことが重要であると確認できた。

〔指導助言〕 茨城県鹿行教育事務所 管理主事、 茨城県牛久市立神谷小学校校長

- ・推進員の業務の明確化ができています。また、推進員が学校のことを熟知している。そのため連絡を密にすればするほど、充実していく。教員経験者以外の推進員はいないためスムーズな連携ができていますが、そうでない場合が多いはずである。そこが教頭としての力の見せどころとなる。
- ・地域の思いを受け止めながら進めていくことが重要である。取組をしながら、軌道修正していく必要がある。そのためには地域と学校との積極的、定期的な対話が欠かせない。地域の声をグランドデザインに活かしながら連携をしていくことが重要となる。
- ・目標を共有すること、人をつなぐこと、この2点ができていること。さらに対話を進め、より子どもの成長につながる方法を考えていく必要がある。

【提言2】子供まんなか、一人一人が笑顔になるための支援の在り方 ―チームとして子供を支援するための教頭のマネジメントについて―

提言者：群馬県玉村町教頭会

〔研究のねらい〕 子供たち一人一人への適切な支援のために玉村町の小学校で行われているチーム担任制での工夫とそこに教頭がどのようにかかわっていくかを考える。

〔グループ協議及び全体での共有 (一部)〕

- ・グループ担任制による業務の偏りについて話題となった。提言者の学校では懇談の担当教員も保護者の希望をとったが偏りは見られなかった。日々の指導においても、それぞれの子どもが多様な個性に応じることができ、偏りはないが、バランスのよい人材配置には気を配っている。
- ・グループ担任制により、教える教科、教えない教科があるが柔軟に対応している。またグループ担任制をしている学校が少ないため、異動した際の環境の変化等、課題に思われることもあるかもしれないが、学んだことを活かせると肯定的にとらえている。
- ・要録、通知表の総合所見についてはグループごとで情報共有して書くことにしており、特に混乱はなかった。

〔指導助言〕 茨城県鹿行教育事務所 管理主事、 茨城県牛久市立神谷小学校校長

- ・教職員、保護者等との十分な情報共有が必要である。教頭としてそのことに力を発揮する必要がある。提言校は試行錯誤を繰り返しながら、ブラッシュアップしている。
- ・情報、意見をどうつなぐかが教頭のマネジメント力として求められる。
- ・チーム支援が教職員の心身の負担の軽減につながり、働き方改革につながっている。それにより子どもにもよい影響が出ていることが感じられる。
- ・校務に ICT を活用し情報のもれがないようにしていく必要がある。積極的に有効な使い方を考えていく必要がある。

第2分科会「子どもの発達に関する課題」

(報告者) 吉賀町教頭会所属

【提言 2】

子供まんなか、一人一人が笑顔になるための支援の在り方
ーチームとして子供を支援するための教頭のマネジメントについてー

【提言者】 群馬県玉村町教頭会

○発表の概要

子どもたち一人一人への適切な支援のために玉村町の小学校で行われているチーム担任制での工夫と、そこに教頭がどのように関わっていくかを考える。

◇中央小学校の取組

(1) 3年生以上の教科担当制の推進と1・2年生の担任外のサポート

担任以外と日々関わることで、子どもに寄り添い、一人一人に適した支援。

(2) 別室登校児童、外国籍児童、特別支援学級在籍児童への支援体制

町内唯一の日本語教室では、日本語教室教職員が「取り出し授業」「入り込み授業」実施。

(3) 外部人材の活用

「保護者」「大学生」「地域」にボランティア人材募集を発信。

【教頭のマネジメント】

共通理解、外部との連絡・調整などを随時行うこと。

◇上陽小学校の取組

(1) ブロックチーム担任制の導入

低中高学年のブロックで3～4名の担当を配置し、状況に応じてローテーション。

(2) YUME ルームの設置

特性を抱え、教室適応が難しい児童への「居場所」づくりのための「校内支援教室」

(3) 教科担当制の導入

ブロック内での教科担任制を実施し、多様な学習支援を実施。

【教頭のマネジメント】

保護者理解、学校全体での共有、教務主任との連携。

○質疑・協議

- ・オンライン協議は、茨城県小学校(全校143名)、山形県小学校(66名)、岐阜県小学校(190名)、愛媛県小学校(156名)、島根県小学校(39名)の5名で行った。
- ・ブロックチーム担任制に関して、「複数の教職員に対する支援体制」というテーマで協議した。教科担任制を実施しているところはたくさんあったが、ブロックチーム担任制に近い形にしているところは1校であった。教諭以外にも、養護教諭、SSW、SC、大学生…など、いろいろな形での支援体制があることが分かった。
- ・また、「校内支援センター」についても協議した。本校も今年度から運営しているが、発表でもあった「子ども自身の決定の場所」という捉え方については、しっかり考えていきたいと感じた。指導講評の中の「対話力・調整力・俯瞰力・支援力」の話が印象に残っている。